

アポイ岳ジオパークが世界ジオパークに認定！

平成 27 年 9 月 19 日、鳥取県鳥取市で開催されたアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムにおいて、アポイ岳ジオパーク（北海道様似町）が世界ジオパークに認定されました。これで北海道の世界ジオパークは、洞爺湖有珠山ジオパークとアポイ岳ジオパークの 2 地域になりました！



アポイ岳ジオパークはこんなところ！

アポイ岳は、世界でもめずらしい「かんらん岩」でできている山です。「かんらん」とは、オリーブの実のこと。オリーブの実のような、美しい緑色をしており、もともとは地球の奥深く、マントルという部分にありました。それが約 1,300 万年前、2つの大陸プレートが衝突した時に、プレートの下にあったマントルの一部が突き上げられるようにして出てきたものが、標高 810m のアポイ岳です。

かんらん岩からつくられた土壌は、植物の生育を阻むニッケルやマグネシウムが多く含まれています。さらに夏は海霧が発生し、気温が高くなりにくいいため、本来はもっと標高の高いところにしか生育しない植物を見ることができます。

アポイ岳は比較的低い山ですが、約 80 種もの高山植物が見られること、さらにここにしか生育しない植物は 20 種近くもあり、1952（昭和 27）年には、「アポイ岳高山植物群落」として国指定特別天然記念物に指定されました。



エンルム岬での昆布干し

アポイ岳の大地（ジオ）の恵み

アポイ岳ジオパークの大地（ジオ）の恵みとしてあげられるのは、「日高昆布」。

日高昆布は、採れる場所の違いによって、産業的価値に違いがあり、上質なものが採れる場所から「特上浜」「上浜」「中浜」「並浜」に分けられています。

日高昆布の産地の中でもアポイ岳ジオパークは、その沿岸域すべてが「上浜」となっており、さらにアポイ岳周辺では最高級の昆布（冬島昆布）が採れることで知られています。



特産の昆布を使った製品いろいろ